

# A H A P P Y N E W Y E A R 2 0 2 2

富士山の裾野を周回しながら、スバルライン、スカイライン、あざみラインの3本で富士山中腹までのヒルクライムを繰り返す富士山「3peaks」という有名なライドコースがあります。走行距離 200km、獲得標高 5,000m オーバーというスペックが The PEAKS と似ているとよく言われます。

しかし、距離や獲得標高のスペックが同じでも、The PEAKS と全く違うのは、富士3ピークスは「登って下る」Up & Down のコースだということです。

一方、The PEAKS のコースの大きな特徴はそれとは真逆の Down & Up、つまり「下って登る」ことにこだわったコースプランニングにあります。

日本全国に山ほどロングライドイベントがありますが、ほぼ全てのイベントは「登って下る」コースで、「下って登る」コース作りは The PEAKS だけ。なぜならば、下ったところをそのまますぐに登り返させることは修行でしかないからです。

周回コースが大半の普通のロングライドイベントでは、下りは登ったあとの「ご褒美」。何も考えずに爽快なダウンヒルを満喫できますが、The PEAKS では、下れば下るほど、そのあとの登り返しがキツくなる……。だから心から下りを楽しめないのです。「もういいかげん下り終わってくれ!!」と心の中で叫びながらダウンヒルしていく、この精神的なストレスを敢えて提供しているのが The PEAKS。

登って下るコースでは、途中で脚が攣ったり、心が折れたりしたら、どこにいてもそこから下ってくれば、楽に下まで帰ってきます。しかし The PEAKS では下ってしまえば、リタイヤする場合でも、なんとか登り返して戻らないと終われない、という状況が往々にあり、だから The PEAKS の参加者ガイドにはこんなルールの一文があります。

「登れないなら下らない」

こんなことを書いてるライドイベントなど他にはありません。

走行距離や獲得標高のスペックでしか The PEAKS を見ていない人には決してわからないこのルールこそ、参加者だけが身を持って分かる The PEAKS の厳しさと独自性のひとつ。この言葉の意味を噛みしめてみなければ The PEAKS は理解できません。

「下って登る」の繰り返して徐々にダメージが蓄積し、「ここを下っていいのか・・・、戻ってこれるのか・・・、時間に間に合うのか・・・」という状況にもし遭遇したら、くれぐれもよ〜く考えてから下ってください。

2022 年も The PEAKS は嫌というほどの Down & Up を用意して、坂バカの皆さんのチャレンジをお待ちしています。

「登れないなら下らない」

down  
& up!

全てをかけて挑むべきライドがここにある

日本最強！最悪！

The  
PEAKS